

開催案内「産学官交流イノベーションフォーラム ～IoT が変わる”暮らし”と”しごと”」

【開催趣旨】

日本政府の成長戦略の柱として「第 4 次産業革命」が掲げられているが、先進技術の情報提供や実質的な議論・実践の場は、限られる。「IoT」や「ビッグデータ」がキーワードとなっているが、実体がつかめずに、「結局、今後どうなる?」「何から手をつければ?」という疑問がかえって積み上がる場面が少なくない。

この大きな問いに応えるべく、筑波大学では「学び」「考え」「実践する」教育研究実践プログラムを構想した。具体的には、通年 3 回の公開フォーラムで、先進事例に学び、次世代の思想と技術を議論し、産学官の交流と技術経営を促進していく。さて、今回の第 2 弾「考える」の回では、人間の「暮らし」と「しごと」に関わる 2 件のディスカッションを頂く。IoT やビッグデータによってガラッと変化する次世代の「暮らし」や「しごと」を、身近なテーマを通して現実問題として捉え、議論を深めていく狙いがある。産官学・老若男女が共に学び、それぞれの立場と課題を共有していく新たな交流が生まれ、ネットワークと共創文化が育まれることを期待する。

【開催概要 (予定)】

日 時：2016 年 10 月 1 日(土) 受付：①12:30～13:00 第 1 部 13:00～16:30 ②第 2 部：17:00～19:00

会 場：①筑波大学 筑波キャンパス春日地区 春日講堂 ②オークラフロンティアつくば 11F

(① 〒305-8550 つくば市春日 1-2 / ② 〒305-0031 茨城県つくば市 吾妻 1 丁目 1364-1)

主 催：筑波大学／茨城県

パネルディスカッション登壇者：

株式会社アビー 大和田 哲男 氏 (代表取締役社長)

株式会社ダイフク 内藤 信吾 氏 (経営企画本部 IoT 企画推進室 室長)

株式会社東芝 ストレージ&デバイスソリューション社 岡 明男 氏 (CIO・最高情報責任者)

株式会社 LIXIL 住田 潮 氏 (顧問／慶応大学教授／筑波大学名誉教授) ※順不同

富士ゼロックス株式会社 中澤菊男 氏 (グローバル SCM 部 SCS グループ グループ長)

参加費：社会人 3500 円 (交流会費含む実費の 40%、主催側 60%負担) (※領収書をご用意します)

対 象：(企業) 製造業・小売業、生産・流通業、IT ベンダー、IoT 分野に関わる企業ほか

※県内、中小・中堅企業からのご参加大歓迎!!!

(自治体) 産業振興、産業技術、産学官連携に関わる職員、IoT に興味・関心のある職員等

(学生) 筑波大学 理工学群/システム情報工学研究科の学生・教員、その OB/OG 等。



申 込：http://urx.red/ycLu (申込締切 9 月 28 日) ※個人/組織の申込み可

申込 QR コード

備 考：①参加登録後に、詳しい案内が送られます。メディア関係の方も事前にお申し込み下さい。

②自動車で来場される方には駐車場をご用意いたします。申込時に必要台数を明記ください。

【タイムスケジュール (予定)】

【第 1 部】パネル討論 (総合司会：筑波大学 有馬澄佳)

13:00～13:30：開会挨拶 (筑波大学 教授 吉瀬章子 (サービス工学専攻プログラムリーダー))、式次 (司会)

13:30～14:40：パネル A 「暮らしをガラッと変える IoT ～世界の冷蔵庫～」

(株)アビー 代表取締役社長 大和田 哲男氏 × (株)ダイフク IoT 企画推進室室長 内藤信吾氏

15:00～16:10：パネル B 「しごとをガラッと変えるビッグデータ ～Virtual Sales & Virtual Factory～」

(株)東芝 S&D 社 CIO 岡 明男氏 × (株)LIXIL 顧問 住田 潮氏 (慶応大学教授/筑波大学名誉教授)

ファシリテーター：富士ゼロックス (株) 中澤菊男 氏 (グローバル SCM 部 SCS グループ グループ長)

16:10～16:50：記念撮影後、会場移動（ホテルから送迎バスを用意）

17:00～19:00：②交流会・オープンディスカッション @オークラフロンティアつくば 11 階

【第 2 部】交流会・オープンディスカッション

17:00～18:10 乾杯・参加者の自己紹介（1 分ずつ）：参加者の全員にマイクを回します 名刺交換等、適宜。

18:10～18:50 交流会・ディスカッション（主室：シエルブルー、個談・休憩・ご家族：コンチネンタル）

18:50～19:00 フォーラムの総括・次回予告と閉会

・閉会の辞（シメー本）：(株) ダイフク 経営企画部担当部長 田中寧 氏

【登壇者プロフィール】（社名 50 音順）

株式会社アビー：大和田 哲男 氏（代表取締役社長）

細胞凍結技術（CAS）とその様々な用途開発に挑戦し続ける、グローバルカンパニー。食品の分野では高品質を維持し凍結保存が可能。医療分野でも再生医療などで開発が進んでいる。

【講師略歴】1966 年株式会社大和田製作所入社。1989 年アビーインダストリー株式会社設立 代表取締役社長に就任。1998 年株式会社アビーに社名変更。2010 年文部科学省科学技術賞技術部門受賞。「細胞組織を活かし長期保存を実現した革新的冷凍技術の開発」2011 年春の国家褒章「黄綬褒章」受章。NHK を始め在京大手 5 社等メディア多数出演。大学・銀行等講演多数。

株式会社ダイフク：内藤信吾（経営企画本部 IoT 企画推進室 室長）

マテリアル・ハンドリング (Material Handling) 分野における売上世界 No.1 クラスのリーディングカンパニー。

【講師略歴】1983 年、大阪工業大学電子工学科卒業、株式会社ダイフク入社。搬送ロボット、組込コントローラの開発に参画後、1988 年からグループ企業、株式会社コンテック米国サンノゼ支社にて計測・制御用電子回路の開発設計、1991 年からリニアモーター、非接触給電システムなど、マテリアル・ハンドリングの要素技術開発に携わる。2016 年から現職、マテリアル・ハンドリングにおける IoT 活用を推進中。

株式会社東芝ストレージ&デバイスソリューション社：岡 明男 氏（CIO・最高情報責任者）

先端半導体やストレージデバイスの世界有数メーカ。IoT やビッグデータを活用した製造技術も先進している。

【講師略歴】1984 年株式会社 東芝入社、25 年以上に渡り IT 部門にて、構造解析、3D-CAD/CAM、PLM 構築などエンジニアリング、マニュファクチャリングの IT 化に携わる。対象 BU は原子力発電、発電機器、医用機器、PC、携帯電話、家電など。2006 年東芝キャリア社にて CIO 兼情報システム部長。2009 年株式会社 東芝 セミコンダクター社にて CIO、2011 年より現職。東芝グループ内の数々の BU で取り組んだ IT 化関連業務の知見を活かし、データ分析環境構築のリーダとして半導体およびストレージプロダクト事業経営に貢献するとともに、モノづくりや SCM、CRM といったビジネスシステムの高度化に取り組んでいる。

株式会社 LIXIL：住田 潮 氏（顧問/慶応大学教授/筑波大学名誉教授）

住まいと暮らしの総合住生活企業。急速なグローバル展開の中で情報基盤の整備とビッグデータ解析に資源を投入中。

【講師略歴】米国にて応用数学、情報科学、経営学の研究とコンサルタント活動。1995 年、国際大学 MBA 研究科長に就任。2001 年 7 月から 2015 年 3 月まで筑波大学教授。応用数学からマーケティング、金融工学、生産システム、ロジスティクス、IT、組織論等、広範な研究領域で 150 本以上の論文を専門誌に発表。

企業講演や幹部育成プログラムも行っている。

【アクセス】つくばエクスプレス「つくば駅」から徒歩 7 分

詳細はこちら：<http://www.tsukuba.ac.jp/access/gmap/gmap.php?i=252060>

【お問い合わせ】筑波大学大学院 システム情報工学研究科 有馬澄佳研究室 arimalab298@gmail.com
（件名を「フォーラム問い合わせ」とし、氏名・所属・役職をご記入ください。）

富士ゼロックス株式会社：中澤 菊男 氏 (グローバル SCM 部 SCS グループ グループ長)

【略歴】1989 年富士ゼロックス (株) 入社。営業、生産管理、購買の実務を経て、現職であるグローバルサプライチェーン戦略担当者として様々な業務プロセス改革/システム導入に従事。以上の経歴から MMRC/東大との調査/交流も担当し「サプライチェーン分科会」座長。中小企業診断士としてもご活躍中。

【パネルディスカッションの流れ】

- ① ファシリテーター (パネル司会) が、パネラーの所属・氏名をご紹介します、次項②を促します。
- ② 各パネラーから、まず、自己紹介ならびに会社・仕事の紹介を頂きます。(各人 15~20 分程度)
- ③ ファシリテーターが、パネルディスカッションの議題や流れを説明します。
- ④ パネラー各人から、議題にまつわるご意見を頂きます。
- ⑤ ④の意見をふまえ、議論を展開します。自由闊達に、必要に応じて、聴衆からの意見も取り入れます。
- ⑥ Q&A 時間に、会場と相互に質疑応答を展開します。⑤の状況に応じて、⑥を早めたり遅めたりします。
- ⑦ 最後に、テーマ別の総括を 5 分ずつでまとめ、全員で共有します。
- ⑧ 次回予告 (2 月第 1 または第 2 土曜日)、次回までの宿題を提示します (軽い冗談も交え)
- ⑨ 最後に、通年の産学官交流フォーラムを経て、以下のような、公募申請を視野に入れた組織化を図っていく抱負を述べます。

「産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム」

<http://www.jst.go.jp/opera/koubo.html>

・申請組織 (要件) :

- ・大学等 (提案時においては、3 大学等以上の参画を要件とします) 及び民間企業 (提案時においては異業種 (例えば製造業とサービス業等) を含めた 5 社以上を要件とします) 群との連名による申請
- ・大学等及び民間企業はプラットフォームを担う「共創コンソーシアム」を形成し研究開発を推進します。

・公募期間 : 3 月 25 日 (金) ~ 年 6 月 6 日 (月)

・狙い・主旨

「産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム」では、産業界との協力の下、大学等が知的資産を総動員し、新たな基幹産業の育成に向けた「技術・システム革新シナリオ」の作成と、それに基づく非競争領域としての産学共同研究を通して、基礎研究や人材育成における産学パートナーシップを拡大し、我が国のオープンイノベーションを加速します。

企業だけでは解決できない大学等の基礎的・基盤的研究が必要である、新たな基幹産業の育成の核となる革新的技術の創出を目指した、学問的挑戦性と産業的革新性を併せ持つ研究領域の提案を期待する。

※非競争領域 (pre-competitive stage) 学術論文の発表が可能で、大学等や複数の民間企業が参画する共創コンソーシアムにおいて、研究成果に関する情報の共有が可能となる基礎的・基盤的研究領域。

・支援期間 : 5 年度

・資金 : 1.7 億円程度 (間接経費含む) / 年・領域 (研究開発費 : 1.5 億円 + 調査推進費 : 0.2 億円程度)

※研究開発費 研究領域・共創コンソーシアムあたり上記の研究開発費を上限として、民間企業が提供する研究資金総額と同額までを、JST が大学等に対し支援するマッチングファンド。

※調査推進費 研究領域に対して、産学による詳細な研究企画や共創コンソーシアムを推進する経費を支援。

本件、組織化は途上 (1 社ほぼ確定、1 社検討中、他 2 大学と協議中) で、シス情全体のベストな体制を要検討。

- ・本学の産学連携本部の協力の下、組織化を推進していく。